



SNS社会に生きる子供たち

～ネット社会の光と影～

北海道で起きた女子高生殺害事件の発端は、SNS上に掲載した画像に関するトラブルだったようです。SNSのトラブルから「殺人」まで発展した今回の事件は、決して遠い場所で起きた特異な事件ではなく、私たちの身近にある危険であり、今のSNS時代の生き方を再考させる事案となりました。

昨年の12月に実施したアンケートでは、「家庭に**自由に使える**情報通信機器（スマホ、PC、通信機能がついたゲーム等）を持っていますか？」という問いに、実に**81%**の児童が持っていると回答しています。情報通信機器は、私たちが予想した以上に速いペースで子供たちの生活に浸透してきています。

ただ、私たち大人世代が経験をしなかった社会だけに、思わぬ落とし穴もあるようです。「**依存症問題**」「**個人情報の扱い**」「**情報の信憑性**」「**匿名性の悪用**」等、子供たちはSNSの便利さとともにこのようなネット社会の**陰の部分**とも付き合っていかなければなりません。ただ、子供たちはまだまだ人格形成の途中です。家庭でのルール作りや大人による制御「**ペアレンタルコントロール**」がとても大切になります。

ここで気になるデータがあります。「情報機器を使うときの決まり事（ルール）はありますか？」という問いに対して、**3割近い子供たちはルールの縛りがない中で情報機器を使用している**こととなります。これは、全国や県の平均よりかなり高い割合です。

また、子供たちが自ら最も自覚している弊害が「**ネット依存**」という問題です。ネット使用がなかなかやめられず、結果として生活のリズムを崩したり、昼夜が逆転し、日常生活を送ることも困難となる事例は、他校だけの話ではありません。「**10時以降もやめられない**」と自覚している児童が**21%**もあり、「**毎日3時間以上使用している**」児童も**20%**いました。

子供たちがこのSNS社会を主体的に生き抜くためにも、しばらくは私たち**大人の伴走が必要**なようです。夏休みを前に、御家庭でもスマホやタブレット等の通信機器の使い方ルールと今のお子さんの活用状況についての確認をしていただければと思います。



スマホ・ケイタイ安全教室

5、6年生は、人権擁護委員の皆様のご協力を得て、情報モラル教育の一環として「スマホ・ケイタイ安全教室」を実施しました。

教室では、NTTドコモの村野さんと、自分に起こりそうな具体的なリスク（長時間利用、高額課金、チャットでのけんか、歩きスマホ等）について自分の生活を振り返り、特に「



コミュニケーションでのトラブル」と「SNSへの情報発信での危険性」について、学習を進めました。

子供たちは、自分達の活用状況を振り返りながら、SNSの便利さに潜む「怖さ」について考えることができました。

裏面には、情報モラル教育資料「家庭でのルールづくりについて」を掲載しています。

また、「インターネットの書き込み」「ゲーム課金トラブル」等の資料を、学校ホームページに掲載しておりますので、御家庭で話題にされる際の参考としてください。

